

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000242		
法人名	有限会社ウェルフェア		
事業所名	グループホームひまわり2		
所在地	群馬県富岡市宇田77-2		
自己評価作成日	令和5年	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日三食手作りの食事を提供。食事作りではご利用者様と一緒に野菜の皮むきや切る、炒める、茹でる等の作業を行い、ときには職員と味見を楽しみながら参加されています。おやつ作りも一緒に行います。・敷地内にある畑では、野菜を育てており毎日の水くれや収穫等をご利用者様と一緒にやっております。・富岡市で作成されたシルク体操や歩行運動、ストレッチ運動などを行い健康・体力維持を心掛けています。・施設で飼育されているペットとのふれあいで癒されてゆったりと生活できる環境。・食事の準備、掃除、洗濯たたみなどの家事を通して張りのある生活がおくれるように心掛けています。・利用者ご家族様が些細な事でも気軽に相談等できるようモバイルメッセンジャーも活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が活動的で生き生きとしている様子がわかる。畑仕事や料理、掃除、化粧等の身だしなみ、どれもこれまでの生活でやってきたことを入居後も継続できるよう。管理者、職員が利用者に合った支援に取り組んでいる。99歳の最高齢利用者の笑顔、朝のモップかけや調理、猫と戯れ、おしゃれを楽しみ、畑で野菜を収穫する、生活の場面ごとに見られる明るい表情や立ち振る舞いに支援の成果がうかがえた。また、長く続く手作りの食事の提供も特徴の一つで、畑で穫れた野菜が即座に食卓にのぼり、家庭的な味付けによる献立は、利用者の元気な体づくりを支援している。日常の生き生きとした生活や活動、時に見られる利用者間の諍いも元気な証といえる。工夫を凝らしながら支援に取り組む、事業所、職員の努力がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は常にミーティングで常に確認し合い職員全員が理念を共有し、実践している	理念に掲げている地域とのつながりを大切にし、道路清掃に職員と一緒に利用者が参加している。地域の一員として関わりを持ち続け、利用者が生き生きとした生活を送る機会を提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行う祭事等に積極的に参加している。地域で行う道路清掃に参加し、地域の方々と交流を行っている	管理者は町内の道路清掃に参加した際、名刺を渡し近所の人と関係を築く努力をしている。結果、入居や認知症についての相談や問い合わせがあり、日頃のつきあいの重要性を実感している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ地域に事業所系列の通所介護・有料老人ホーム・グループホームがあり、地域の高齢者の暮らしや、生活の情報、地域のことの情報交換が常にされています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、サービス向上のためにいかされており、ミーティングや職員の意見交換のときにも話し合っている	隔月で書面開催であったり、状況によって市の担当者を迎えて会議を開いている。現状報告や施設への要望と助言、イベント計画予定と結果報告等をまとめ、議事録として関係者に配付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢介護課や包括支援センター、他の担当者とも連絡をとりサービス向上に取り組んでいる。市主催の地域ケア会議に参加している。	コロナ感染があった際は保健所とやり取りをし、対策についての指導を受ける等、連携を図っていた。また、家族から希望があれば介護保険の更新代行や認定調査の立会いをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は「指定地域密着型サービス指定基準（介護予防）における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解している。身体拘束・虐待防止についての施設内研修を行い、ケアの実践に繋げている	自動の玄関扉は開錠している。、年4回、身体拘束、虐待について研修をし、スピーチロックにあたる「ちょっと待って」に代わる、その人に合った言い方を話し合う等、研修内容を実践に活かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止についての施設内研修を定期的に行い、研修後、報告書を提出し、ケアの実践に繋げている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者はいないが職員は制度を勉強しており、必要時は支援を行う用意ができています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、時間をかけて十分な説明を行い理解・納得を図っている。改定については説明を行い理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族等に対し、面会時には常にコミュニケーションをとり、その他モバイルメッセージを活用し、利用者の訴えや、家族の思いを聞くよう心掛けている。利用者家族の運営推進会議への発言もあり運営に反映している	家族からはLINEや電話で「利用者の顔が見たい」「コロナで大丈夫か」といった意見や要望を聞いている。利用者からは「買い物に行きたい」「猫と過ごしたい」等具体的な希望があり応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやモバイルメッセージのグループ機能を活用し、職員の意見交換や提案、報告等を常に行っている。このことにより情報の共有ができています	年4回全員が出席するのミーティングがあるが、職員とはLINEで、気になったこと等直ぐに職員間で共有し、意見を出し合っている。また、朝夕の申送りでは意見交換をし、結束を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心をもち働けるよう職場環境・条件の整備に努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症対策のため外部での研修は見送っているが、施設内研修を行い職員のレベルアップに繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や群馬県地域密着型サービス連絡協議会のブロックごとの活動を通し、同業者の交流や、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族と面談をさせていただき、その中で本人の思いを受け止め安心感が持てるように関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にサービスに関する説明を行い、家族等が困っていること、不安なこと、要望等は細かくコミュニケーションをとりながら何度でも話せる環境作りに努めている。いつでも相談ができ、不安に思うことは相談していただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複数のサービスがあり、その中から一番本人の希望するサービスの見極めに対しての助言をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように、そして一人ひとりが暮らしの中に役割をもち自信のもてる生活がおくれるよう支援し、それぞれのペースで助け合いながら暮らしていけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日常生活状況や体調について連絡しながら家族と連携し合い、本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		利用者が入居後も畑仕事や料理、掃除、買い物、お化粧やカラオケ等、これまで同様継続できる支援に努めている。面会も玄関で網戸越しで実施したり、入院前には家族と会う機会を設けていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮し、利用者同士の関わり合いを大切に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の配慮に努めている	利用者と日常的に話をしたり、様子から本人の思いや意向の把握に努めている。また、月1回支払いの際、家族に利用者の様子を伝え、話をする中で思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人と家族からの聞き取りと、日常生活の中からの生活歴や利用者の意向をくみ取り、これまでの暮らしの配慮に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の利用者の状況は介護記録に記帳されており些細な変化や、言葉など、細かく記帳するよう努力している。モバイルメッセージ等も活用し全職員が情報の共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向は面会時や電話連絡で確認を行うようにしている。毎月モニタリングを行い必要時又は6ヶ月に介護計画を作成している	毎月1回モニタリングをし、6ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。利用者の思いや意向が反映された個別支援をしているが、介護計画の中に個別性が盛り込まれていない。	実践している個別のサービスを具体的に介護計画に計上した後、改めて計画に沿って実践し、温度板等と重複しない記録の省力化を見直しはいいかがか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やモバイルメッセージを活用し全職員が情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。天気のいい日には外でお茶会や畑での作業、時には利用者の希望を聞きドライブやショッピングを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や本人より、聞き取り情報などから、本人がいろいろな場面で力が発揮できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と相談しながら適切な医療がうけられるよう支援して	入居時に主治医の選択ができることを説明しているが、全員が定期的に職員の付添いで協力医に受診している。内科では定期的に血液検査を受け、歯科もその都度職員が受診に付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師・訪問看護師は常駐していないが、何かの時には相談できる体制がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との医療契約がされており、病院関係者との情報交換や相談ができる関係づくりがされている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方についての方針ができている	最近では最高齢者の終末期について家族と相談し、意向を確認した。今後希望があれば、訪問看護のサービスを利用し看取りを実施し、その為の指針作り、体制作りに取り組むことを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	積極的に救急救命の講習に参加し、実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火訓練など定期的に行っている。食料の備蓄や災害に備え地域の方へ協力できるようオムツ類の備蓄にも努めている。	新たに「火災時マニュアル」を作成し、年2回の消防訓練(通報、消火、避難訓練)と毎月の自主訓練の実施に活かしている。また、「災害時の保存食、オムツ類在庫表」で備蓄品を管理している。。	自主訓練の記録には実施内容、反省点、次の課題等を記入し、消防暑の指導を受ける際に活かせる工夫をし、更に利用者を守ることにつなげる取り組みをしてほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した対応をしている。	異なる生活歴を持つそれぞれの利用者に合った言葉遣いで対応することを心がけている。また、利用者同士の相性もあり諍いもあるが、職員が仲介し、双方の人格を尊重した対応をしている。	入居時に異性介助になることもある旨を説明してはいかがか。異性介助になる場合は「私でいいですか」とその都度尋ねて、より利用者を尊重することにつなげてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定できる場面を作り支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活に配慮し希望にそってその人のペースで支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせ支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やあと片付け、畑での野菜の収穫等職員と共に楽しみながら食事をしている	利用者が畑から収穫した野菜や1週間ごとに買い置きした食材を用いて、長い間、変わらず手作りの食事を提供している。調理や盛り付けも利用者が手掛け、おやつも皆で手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス・水分摂取量は一人ひとりの状態に応じ支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の体調に配慮し、排泄パターンを職員間で把握し気持ちよく排泄できるよう支援している	自立者は2名、ベッドでの対応は1名、他の利用者はトイレ誘導しているが、職員はできるだけトイレで排泄できるよう支援に努めている。汚染があった場合は「頼むね」と利用者から声がかかる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防対応として、食事の工夫や水分摂取量1600ccを目標に取り込んでいる。体操や歩行訓練など体を動かすよう心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望に合わせて行っているが、週2回程度入浴ができるようにしている	週2回、10時から実施している。入浴予定日以外であっても声かけをしたり、希望があれば対応し、連日入浴する利用者もいる。拒否者には畑や散歩に一端行き、後に誘導する等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに応じた安眠や休息の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や用量について理解するよう全職員が努めている。服薬の支援と症状の変化にも敏感に全職員で対応し申し送りされている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの気持ちの寄り添い、生活歴やその人の力が活かしながら気分転換ができるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。家族と相談しながら、本人の希望や体調に考慮し外出の支援をしている	日常的には玄関先でお茶会をしたり、畑仕事をし、利用者の希望で散歩や買い物に出かけている。また、同地区にある湖でのイベントを見に行ったり、家族と帰宅することもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、本人の希望を取り入れ、個々の力量に応じ支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共有空間には、植物や季節の花が飾られ家庭的な雰囲気で落ち着ける	大きく見易い文字のカレンダーや献立を掲示している。利用者は毎朝、共用空間を掃除し、猫と遊んだり、テレビを観て自由に過ごしている。また、感染症対策として2時間ごとに換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間からは、各利用者の居室が面しているので、一人の時間や利用者同士が楽しく過ごせるスペースなど思い思いの場所が確保されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人と家族に相談しながら、居心地よく過ごせるよう配慮している	入居時に「何でも持って来てください」と説明し、仏壇、衣装ケース、賞状、アルバム、化粧品等を持ち込み、これまでやってきたことを継続する支援を心がけ、その人らしい居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はとても分かりやすい作りになっている。安全にも配慮されていて自立した生活が送りやすい環境になっている		